



介護あんしん 相談員だより

第54号 令和6年11月発行
発行：鳥栖地区広域市町村圏組合
(介護保険課 地域支援係)
連絡先：0942-81-3111

介護あんしん相談員は橋渡しをします！

施設に入居していると、ちょっとした不満や不安があっても、直接スタッフに言うことを遠慮してしまうことがあります。介護あんしん相談員は、ご本人やそのご家族が施設職員に直接は言いにくいことをお聞きして、客観的な目で見つけた点を施設側に伝えて問題の解決をはかります。現在18名の相談員が活動しています。



※現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため、受入可能な施設のみの訪問をさせていただいております。

- 相談員の受入再開をまだ実施されていない事業所の皆様へ
お気軽に受入再開のお電話をください。
☞ 0942-81-3111 (地域支援係)

利用者様や介護あんしん相談員の声からいくつかご紹介します
(令和6年8月・9月)



～利用者様の声より～

利用者：何もする事が無い。テレビばかり見るのも疲れる。ゲームやレクリエーション等無いので、ぼんやり過ごす事が多い。
施設：レクリエーションは定期的に実施しています。

【鳥栖地区広域市町村圏組合】



利用者様にとって、施設に対しての感じ方は様々で難しい問題ですね。
こちらの施設で、他の利用者様からのご意見は、「自分は人と関わるのは苦手。ここは何もせず、自分のペースでゆっくり過ごせるので居心地がいい。職員さんも家族のようにお話してくれるので、必要以上に気兼ねしなくて済む。」と居心地の良さを話されました。
レクリエーションは週に2～3回実施され、ほとんどの方が参加されています。廊下の掲示板には、色々なレクリエーションの写真が貼ってあったそうです。
利用者様は得意なことがそれぞれ違い、その方のできる好きなパズルや数合わせなど、記憶に残る楽しいことが見つければ良いですね。

利用者：母親には、大変感謝をしている。

施設：お盆運びや隣の席のカーテンの開閉など、よくお手伝いをしていただいている利用者様です。

【鳥栖地区広域市町村圏組合】



施設には七夕会でスイカを抱え、お祭りの法被を着た利用者様の写真が貼られており、花火や水風船などのたくさんの作品が飾られていました。

そんな中、利用者様と七夕会の話題から子供の頃の話になり、ご苦労されたお母様への感謝の気持ちを涙ながらに話されたそうです。

施設の催しを通して、昔家族で行っていた七夕等の夏の思い出、家族で過ごした日々を思い出されたのでしょうか。

利用者様皆にひとりひとり違った思い出があり、認知症になったら何も分からない人ではなく、何歳になってもご両親に対する感謝の気持ちなど、感情は根底にしっかりあるのだと、相談員は受け止められたようでした。



～介護あんしん相談員の声より～



相談員：男性の利用者様が数人いらっしゃいますが、男性同士の交流はありますか。

施設：お話が盛り上がることは少ないですが、交流はあります。

【鳥栖地区広域市町村圏組合】



こちらの施設では、男性利用者様の自立度アップが今の課題で、それに向けてのリハビリやご家族の協力を得ながら、男性利用者同士のコミュニケーションの工夫をされているようです。

男性利用者様同士、隣の席に座ってもほとんど会話はありませんが、お互いに購読されている新聞を、黙って交換しあって読まれているそうです。微笑ましい光景だなと感じました。それだけでもコミュニケーションは取れているようです。

ご夫婦で入居されている利用者様は、住み慣れた自宅で夫婦の時間も持ってもらいたいと、ご家族の意向で2～4週間に1回程度、ご自宅での時間を楽しまれているという話を聞きました。施設と自宅で住まい方の工夫をしながら、上手に生活をされているなと感じました。

また、スタッフさんがタブレットの入力をしながら、合間に利用者さまの手をさすったり、笑顔で相槌を打ったり自然のケアで、微笑ましい光景だったそうです。

男性利用者に限らず、おしゃべりやレクリエーションで賑やかな時間を過ごすだけでなく、誰かがただ近くに居るだけで、「ホッ」と安心できる時間もありますね。

鳥栖広域 相談員だより

検索

鳥栖地区広域市町村圏組合のホームページで、今までの「介護あんしん相談員だより」を閲覧することができます。よろしければご利用ください。

